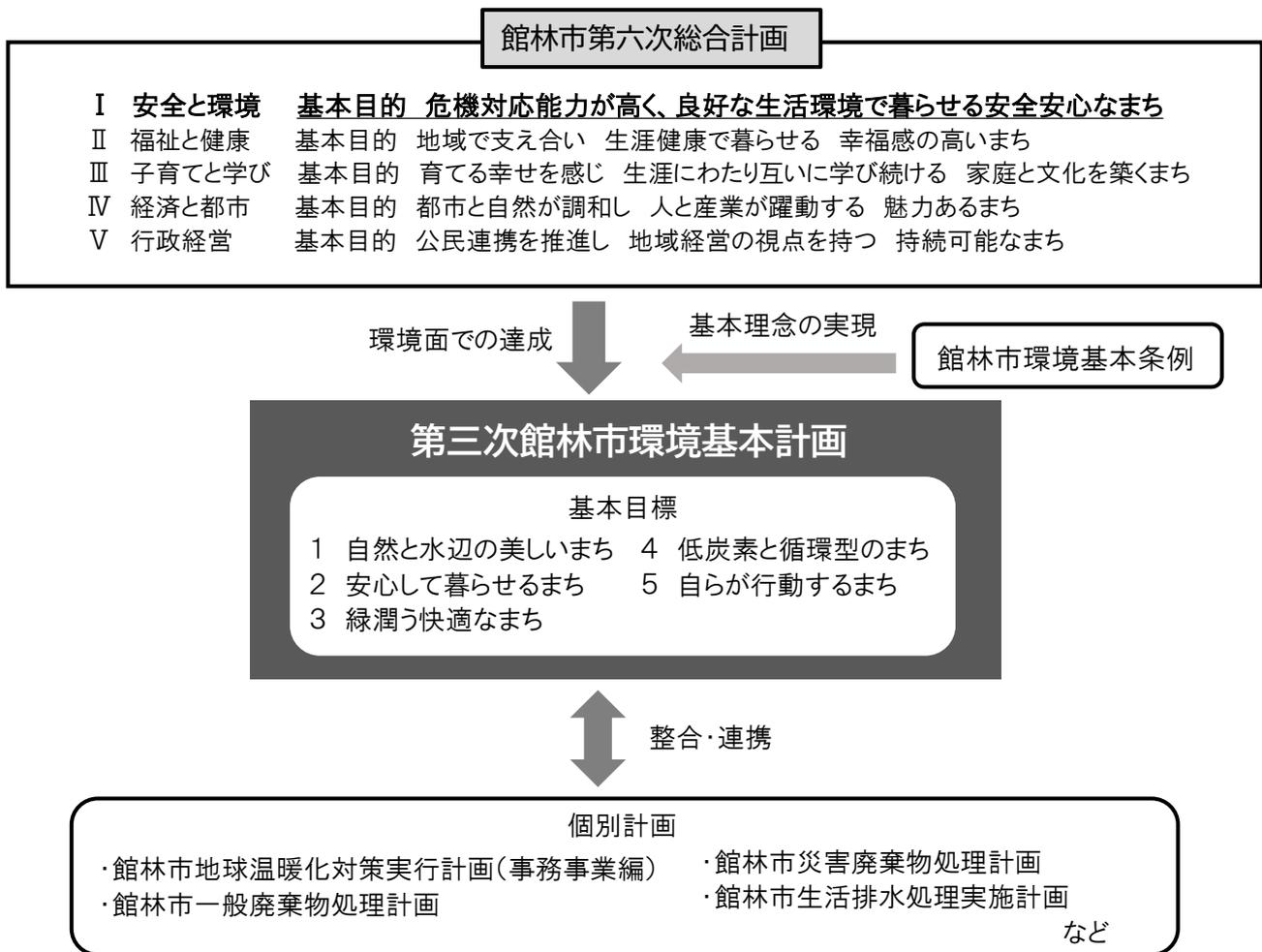


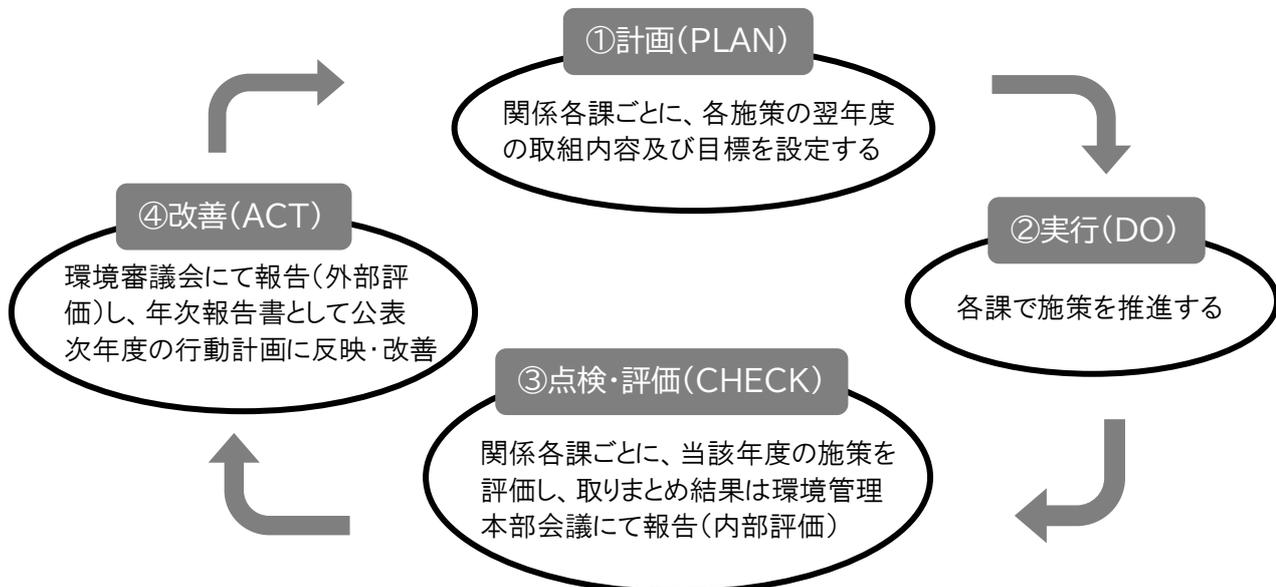
第三次館林市環境基本計画
～令和3年度結果報告書～

1, 第三次館林市環境基本計画の位置づけ



2, 進行管理について

計画の進行管理は、環境マネジメントシステム (EMS) のPDCAサイクルの考え方にに基づき行います。



3, 基本目標及び行動目標の評価

基本目標1～5の評価は以下の通りです。

【○：中間目標値・目標値達成 ▲：改善されているが目標未達成 ×：現状値より悪化】

〈基本目標1 自然と水辺の美しいまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度	
					R2	R3	R2	R3
①みどり	鳥獣保護区の面積 特別緑地保全地区の 面積	鳥獣保護区: 773.2ha 特別緑地保全地区: 12.0ha	面積の維持	面積の維持	維持	維持	○	○
②水辺	湿原面積	茂林寺沼湿原: 5.6ha 蛇沼湿原:1.1ha 入ノ谷湿原:2.1ha	面積の維持	面積の維持	維持	維持	○	○
③水資源	観測井2か所の 地下水位(※1) ・2号井150m/上早川田町 ・3号井80m/上早川田町	2号井:17.23m 3号井:4.32m	現状維持	現状維持	2号井: 17.07m 3号井: 4.32m (令和元年度)	2号井: 16.59m 3号井: 4.19m (令和2年度)	○	○
④生きもの	メダカの生息 確認の有無	生息	生息	生息	生息	生息	○	○
⑤ふれあい	自然観察会の 参加人数	2,770人 (事業数:7)	3,100人	3,300人	530人 (事業数:5)	484人 (事業数:5)		

※1水位は地表面より下の水位を示している

〈基本目標1〉5項目中4項目達成しています。自然観察会の参加人数では令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響による中止から減少となりました。

〈基本目標2 安心して暮らせるまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度	
					R2	R3	R2	R3
⑥空気	大気汚染物質(※1)の 長期的評価による環境 基準達成率(除く 光化学オキシダント)	100%	100%	100%	100% (令和元年度)	100% (令和2年度)	○	○
	光化学オキシダントの 短期的評価(※2)による 環境基準の達成状況	未達成 (138日超過)	達成	達成	115日超過 (令和元年度)	96日超過 (令和2年度)	×	×
⑦水	鶴生田川五号橋の 水質(BOD)(※3)	5.3mg/l	5.0mg/l以下	5.0mg/l以下	5.0mg/l	4.0mg/l	○	○
	城沼中央部の水質 (BOD)(※3)	12.0mg/l	5.0mg/l以下	5.0mg/l以下	8.8mg/l	6.0mg/l	▲	▲
⑧騒音・ 振動	観測地点での騒音の 環境基準の達成率	昼間:100% 夜間:100%	昼間:100% 夜間:100%	昼間:100% 夜間:100%	昼間:100% 夜間:100%	昼間:100% 夜間:100%	○	○

⑨悪臭	悪臭の苦情件数	5件	3件	1件	9件	6件	×	×
⑩地盤・土壌	水準測定点25地点の5年間の平均地盤沈下量	6.1mm	6.0mm	6.0mm	4.6mm (令和元年度)	11.9mm (令和2年度)	○	×

※1大気汚染物質は一般大気及び自動車排出ガスの測定局による測定結果を示す
 ※2環境基準(1時間値が0.06ppm以下)を1回以上超えると未達成
 ※3水質の値は「75%値」を参照

〈基本目標2〉7項目中3項目達成しています。鶴生田川五号橋の水質は目標を達成していますが、城沼中央部は平成29年度より数値は改善したものの、目標値には届きませんでした。市内観測地点での騒音の環境基準は、昼夜ともに全ての地点で環境基準以下で目標達成となりました。

〈基本目標3 緑潤う快適なまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度	
					R2	R3	R2	R3
⑪公園	市民1人当たりの公園・緑地等面積	27.91㎡	現状維持	現状維持	28.37㎡	28.47㎡	○	○
⑫景観	町並みが美しいと思う市民の割合	68.6% (令和元年度)	70%	80%	71.1%※1 (令和3年度)	80.9%※1 (令和4年度)	○	○
⑬緑	庭の緑化に取り組んでいる市民の割合	—	80%	85%	74.9%※2 (令和3年度)	71.5%※2 (令和4年度)	—	×

※1市民・事業者アンケート調査結果「町並みの美しさについて」より算出
 ※2市民・事業者アンケート調査結果「庭の緑化について」より算出

〈基本目標3〉3項目中2項目達成しています。町並みが美しいと思う市民の割合については、80.9%となり目標値を達成しました。庭の緑化に取り組んでいる市民の割合は、令和2年度より-3.4%となり目標を達成することができませんでした。

〈基本目標4 低炭素と循環型のまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度	
					R2	R3	R2	R3
⑭再エネ	市民の低炭素型設備機器の導入率	22.9% (令和元年度)	50%	70%	23.3%※1 (令和3年度)	23.7%※1 (令和4年度)	▲	▲
⑮省エネ	市民の省エネルギー実施率	40.5% (令和元年度)	50%	60%	41.6%※2 (令和3年度)	41.1%※2 (令和4年度)	▲	▲
⑯循環型社会	市民1人1日当たりのごみ排出量	975g (平成30年度)	755.5g (令和4年度)	700g	944g (令和元年度)	954g (令和2年度)	▲	▲
	ごみの資源化率	21.7%	33.2% (令和4年度)	40%	20.8% (令和元年度)	19.9% (令和2年度)	×	×
⑰温暖化	市域からの二酸化炭素排出量	562千t-CO ₂ (平成28年度)	503千t-CO ₂	466千t-CO ₂	502千t-CO ₂ (平成30年度)	475千t-CO ₂ (令和元年度)	○	○
⑱公共交通	拠点間を結ぶバスの利用者数	178,540人 (平成30年度)	現状維持	現状維持	132,228人	157,376人	×	×

⑱気候変動	人口1万人当たりの熱中症による救急搬送者数	13.1人 (平成30年度)	減少	減少	7.2人	4.8人	○	○
-------	-----------------------	-------------------	----	----	------	------	---	---

※1市民・事業者アンケート調査結果「地球温暖化防止につながる設備の導入」より算出

※2市民・事業者アンケート調査結果「省エネルギー行動について」より算出

〈基本目標4〉7項目中2項目達成しています。市民の低炭素設備機器の導入率、省エネルギー実施率は、令和元年度より増加しているものの、目標値には届きませんでした。拠点間を結ぶバスの利用者数については、令和3年度より拠点間を結ぶ路線として新たに赤羽線が運行を開始しましたが、目標達成とはなりません。一方、熱中症による救急搬送者は大きく減少しています。

〈基本目標5 自らが行動するまち〉

項目	環境指標	現状値 (平成29年度)	中間目標値 (令和6年度)	目標値 (令和11年度)	実績		目標達成度	
					R2	R3	R2	R3
⑳環境啓発	環境啓発事業への参加人数	2,073人 (平成30年度)	2,800人	3,000人	イベントの開催無し	イベントの開催無し		
㉑環境学習	出前講座の年間実施件数及び参加人数	23件・1,392人 (平成30年度)	28件・1,680人	30件・1,800人	7件・350人	9件・305人		
㉒環境活動	環境に係わる活動への参加率	22.4% (令和元年度)	35%	45%	18.2%※ (令和3年度)	17.5%※ (令和4年度)		

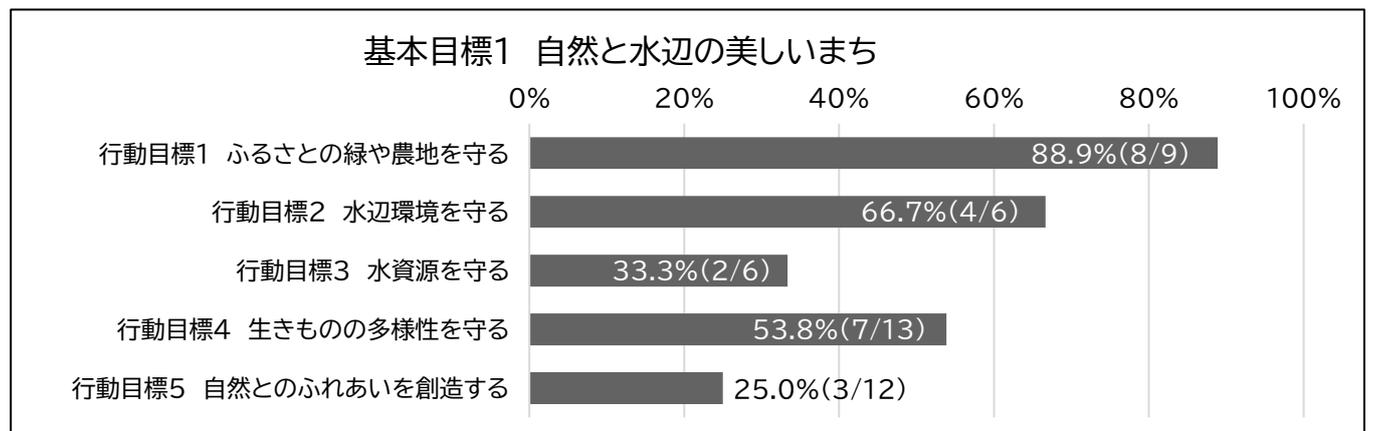
※市民・事業者アンケート調査結果「環境に係わる活動について」より算出

〈基本目標5〉新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント・出前講座が中止となり、環境啓発及び環境学習を十分に実施できません。また、環境に係わる活動への参加率は、令和元年度から減少し17.5%となりました。

4. 関係各課における行政施策の評価

基本目標1 自然と水辺の美しいまち【達成率:52.2%】

行動目標1～5の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

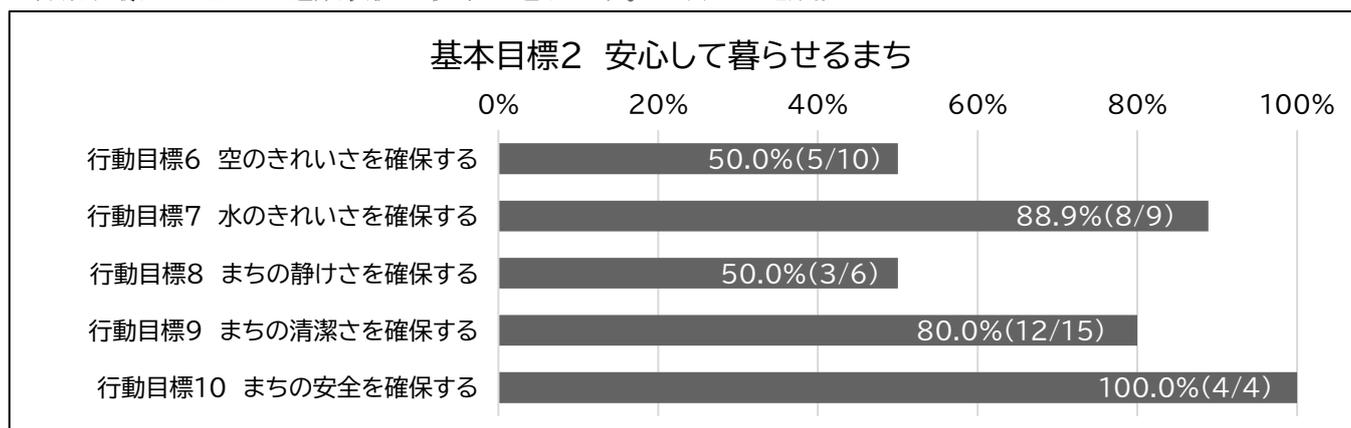


行動目標1「ふるさとの緑や農地を守る」では、保存樹木の管理や緑地、農地ともに土地の開発、管理について指導する等、緑地、農地の保全につながる事業を実施しました。

一方、行動目標5「自然とのふれあいを創出する」では、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント等の中止から参加者の減少となり、十分に実施することができない施策がありました。

基本目標2 安心して暮らせるまち【達成率:72.7%】

行動目標6～10の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

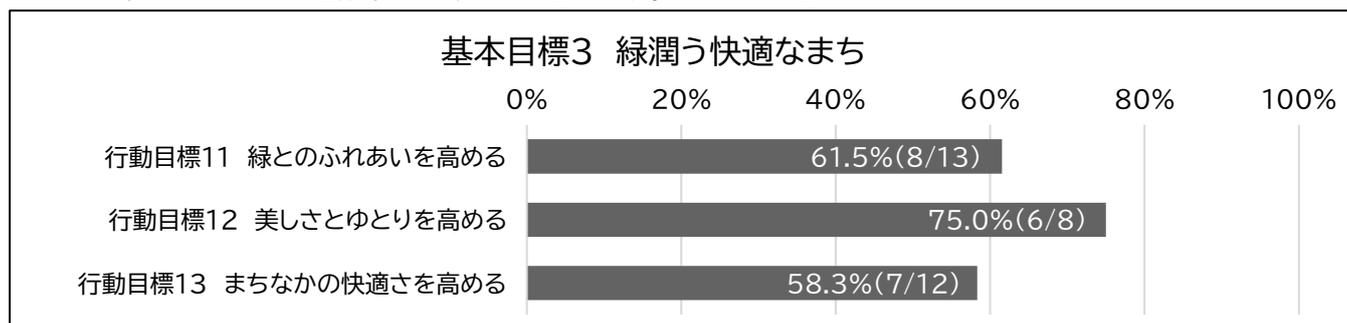


行動目標10「まちの安全さを確保する」では、有害廃棄物の適正処理に関する情報提供や空間放射線量の測定など、健康で安全な生活の確保に向けて取り組みました。

一方、行動目標8「まちの静けさを確保する」では、低騒音型家庭用機器の情報提供などの生活騒音対策の推進が十分に実施できませんでした。

基本目標3 緑潤う快適なまち【達成率:63.6%】

行動目標11～13の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

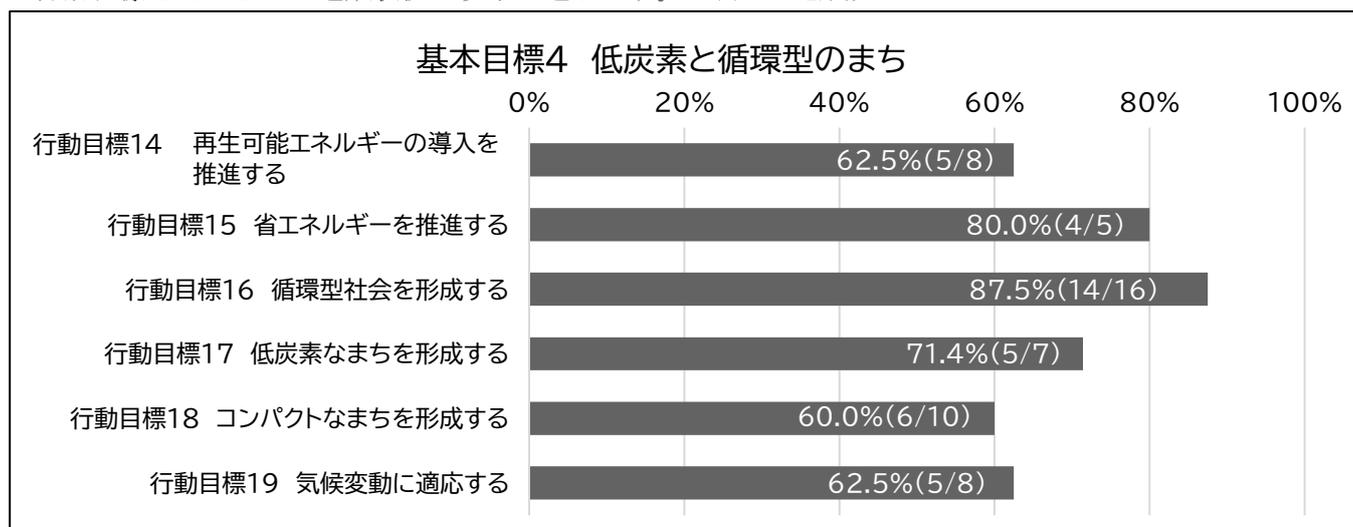


行動目標12「美しさとゆとりを高める」では、ごみの不法投棄防止の看板の設置や空き家バンクによる空き家の利活用などを実施しました。

一方、行動目標13「まちなかの快適さを高める」では、緑化に関する補助金の実施や緑のカーテンや打ち水などの啓発を実施しましたが、公園・緑地等の利便性向上に向けて、引き続き維持管理を実施していく必要があります。

基本目標4 低炭素と循環型のまち【達成率:72.2%】

行動目標14～19の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数

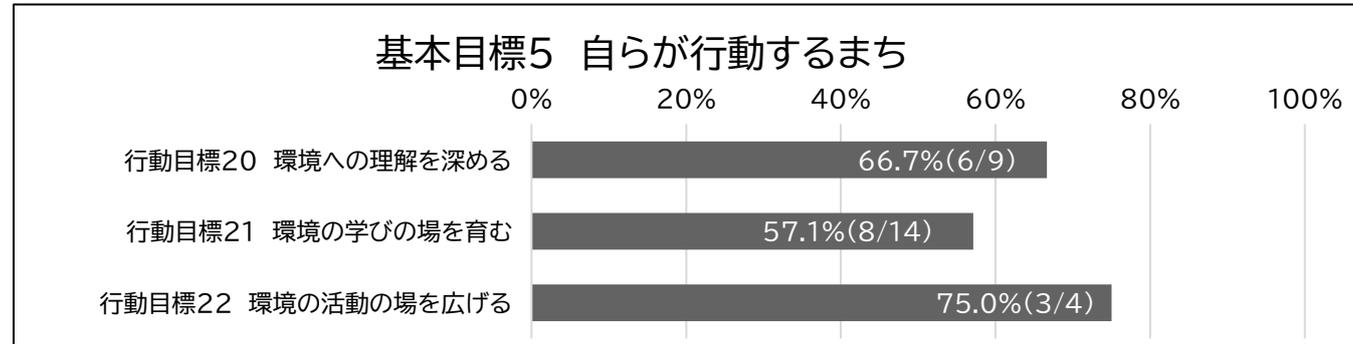


行動目標16「循環型社会を形成する」では、学校、地域の対象者を中心にごみの分別について説明会を実施しました。また、ごみ減量化器具購入補助についても普及促進に努め、目標の補助件数を達成しました。

一方、行動目標18「コンパクトなまちを形成する」では、路線バスの利用者数が目標に届かず、公共交通利用への意識醸成が課題となっています。

基本目標5 自らが行動するまち【達成率:63.0%】

行動目標20～22の達成状況は以下の通りです。※()内は施策数



行動目標22「環境の活動の場を広げる」では、館林市環境賞で環境美化などに取り組んだ個人や団体について6件の顕彰を行いました。

一方、行動目標21「環境の学びの場を育む」では、新型コロナウイルス感染症の影響により、自然観察会や森林学習等が中止となり、環境教育に係る事業を十分に実施することができませんでした。

市民・事業者アンケート調査結果

1, 調査結果概要

第三次館林市環境基本計画の進行管理にあたり、市民・事業者の環境への取組状況を把握し、市の環境行政に反映させるために、アンケート調査を実施しました。

調査対象	市民	事業者
調査期間	令和4年5月12日～令和4年6月3日	
抽出方法	住民基本台帳より無作為抽出	館林商工会議所所有データより業種ごとに無作為抽出
調査数	400	80
回収数	180	39
回収率	45.0%	48.8%
	45.6%	

2, 市民アンケート調査結果

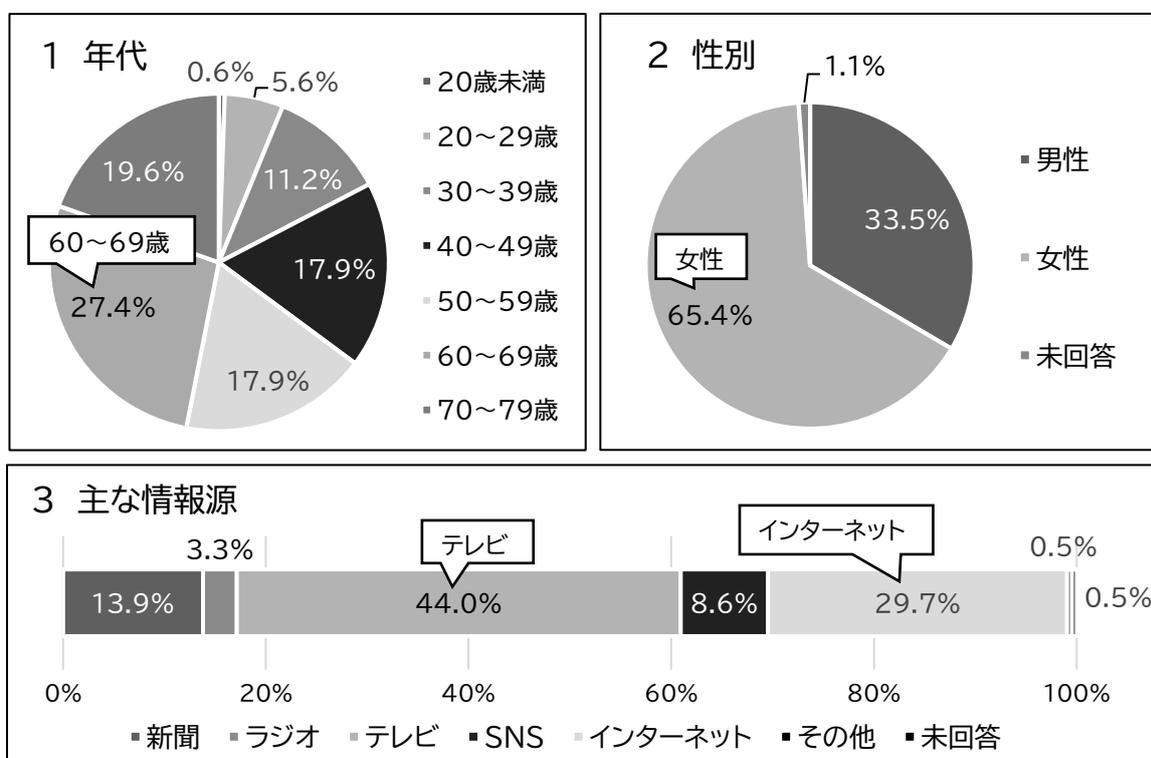
※小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

(1) 基本情報

【1年代・2性別・3主な情報源】

回答率が最も高かった年代は60～69歳で、回答者の約4分の1を占めています。若年層に近づくにつれて、回答率は減少しています。男女比率では、女性の割合が6割以上を占めています。

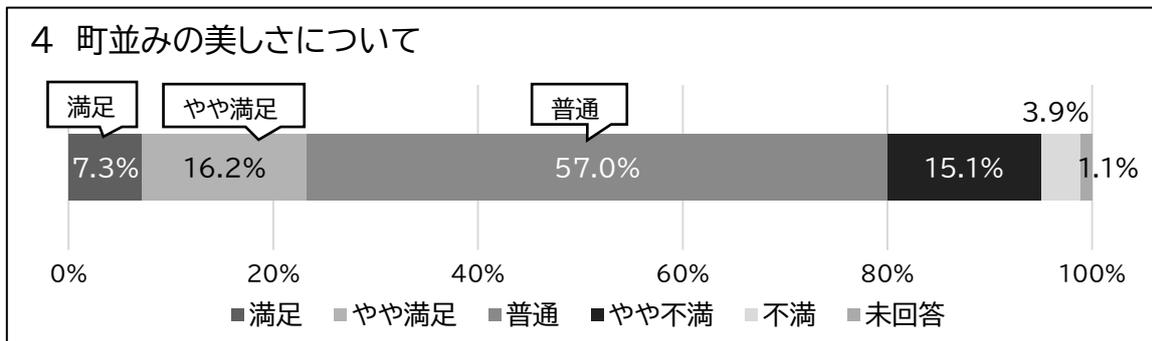
また、主な情報源ではテレビが約5割、次いでインターネットが約3割でした。



(2) 環境指標の評価項目

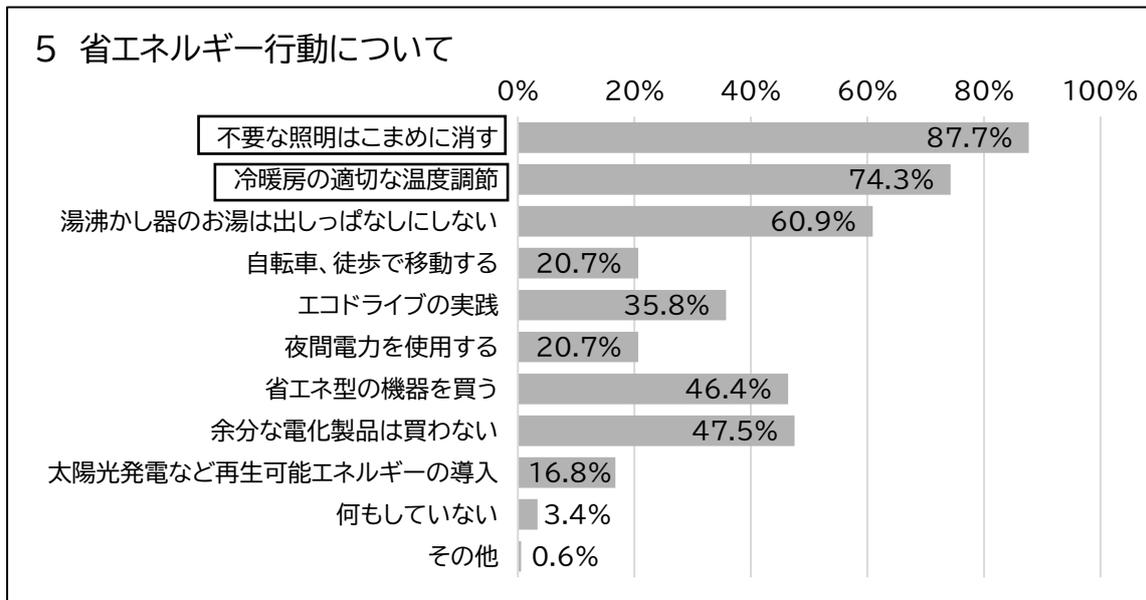
【4町並みの美しさについて】

自分が住んでいる地域のことについての質問では、「満足」「やや満足」は全体の約2割、「普通」が全体の6割弱という結果になりました。



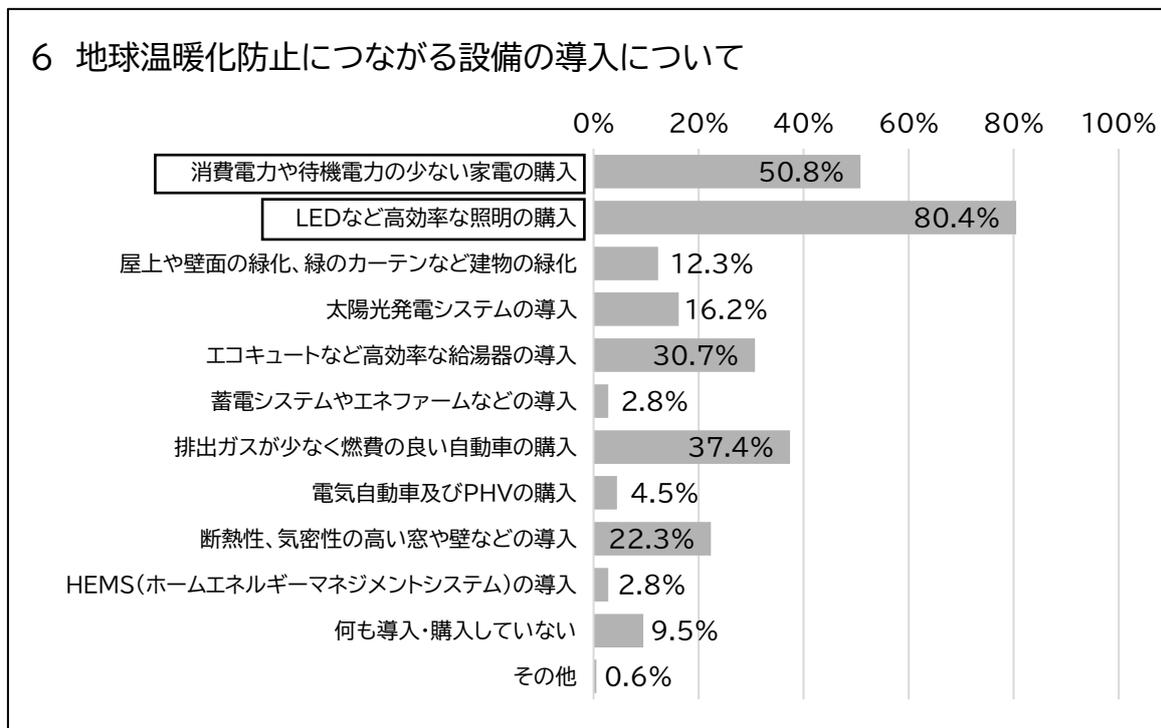
【5省エネルギー行動について】

日常生活の中で実践している省エネルギー行動についての質問では、こまめな節電は9割弱、冷暖房の温度調節においては、市民の7割強が取り組んでいました。



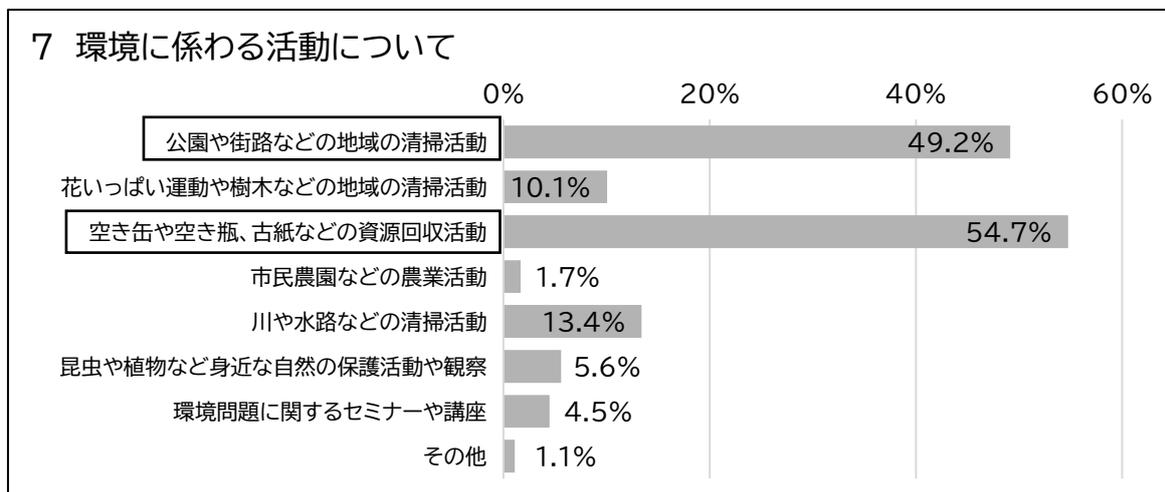
【6 地球温暖化防止につながる設備の導入について】

すでに導入および購入している設備についての質問では、一番多かったのは「LEDなどの高効率な照明の購入」で8割、次いで消費電力や待機電力の少ない家電の購入が5割となりました。



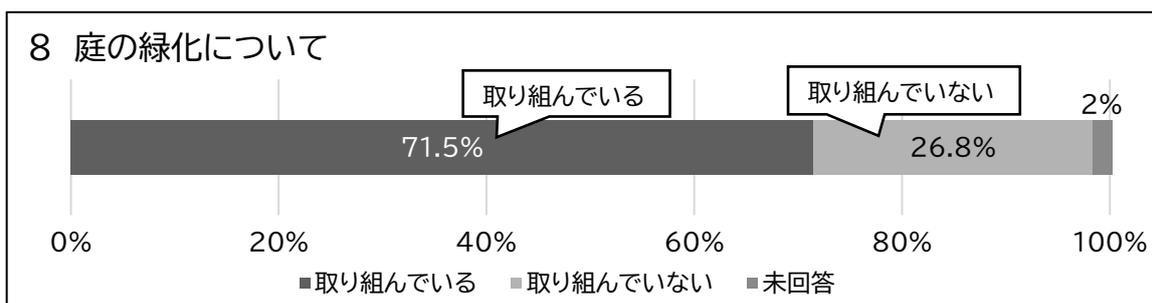
【7 環境に係わる活動について】

清掃活動や保全活動などへの参加状況については、市民の約5割が参加したことがあるという結果になりました。



【8庭の緑化について】

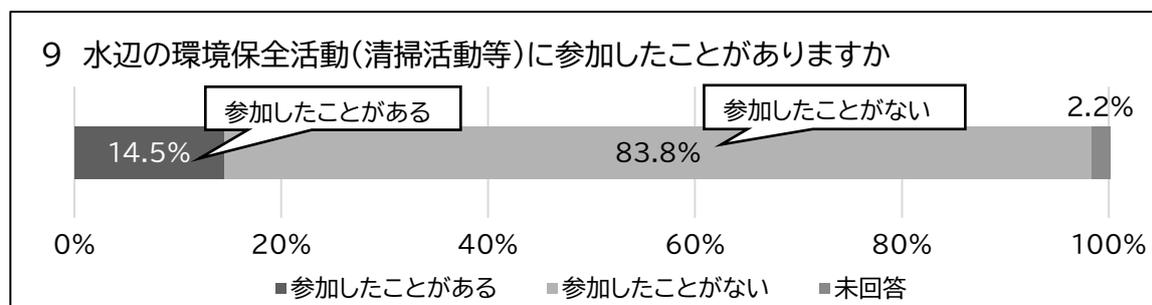
庭の緑化に取り組んでいると回答した人が7割を超えました。



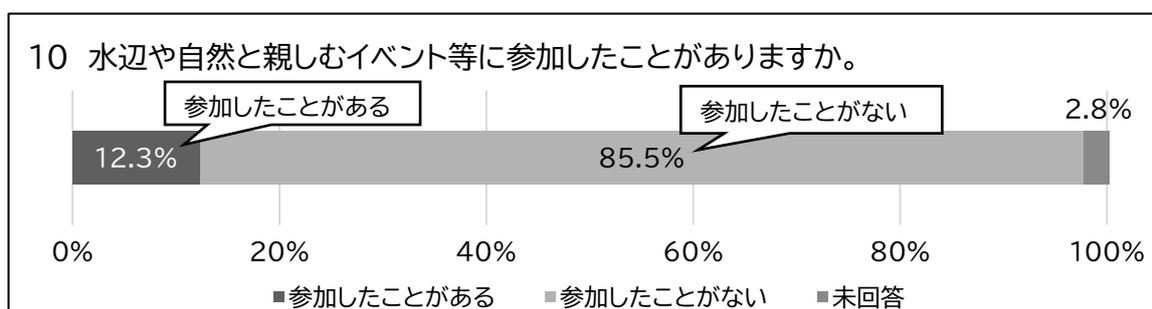
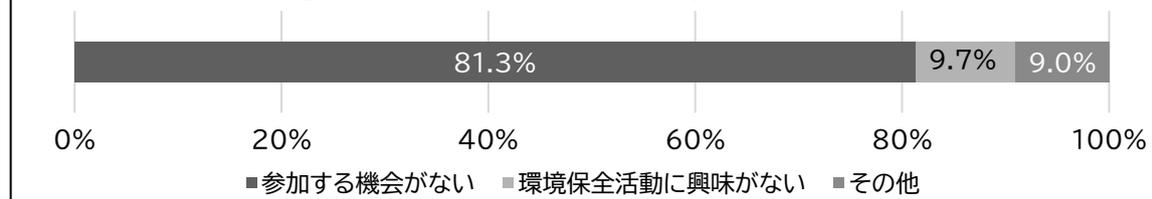
(3) 環境に関するテーマごとの設問

【水に関すること】

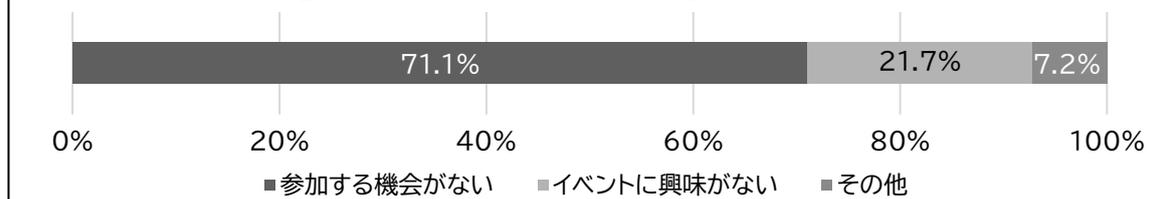
河川清掃や環境イベントに参加したことがあると回答した人はともに2割未満でした。また、水質保全のために野菜くずや食用油を流していない人は9割を超え、多くの人が取り組んでいる結果となりました。

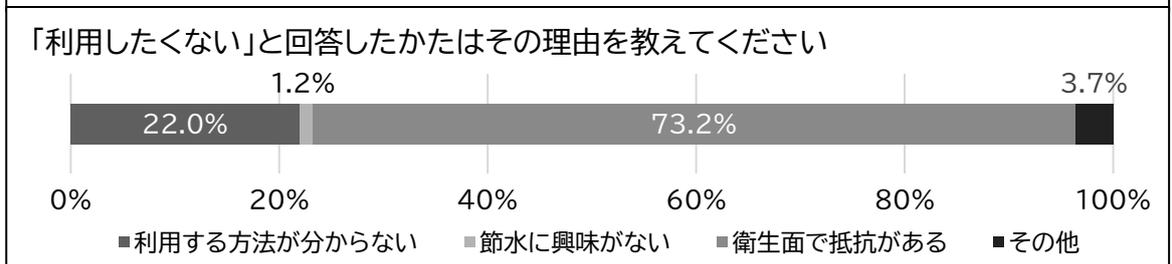
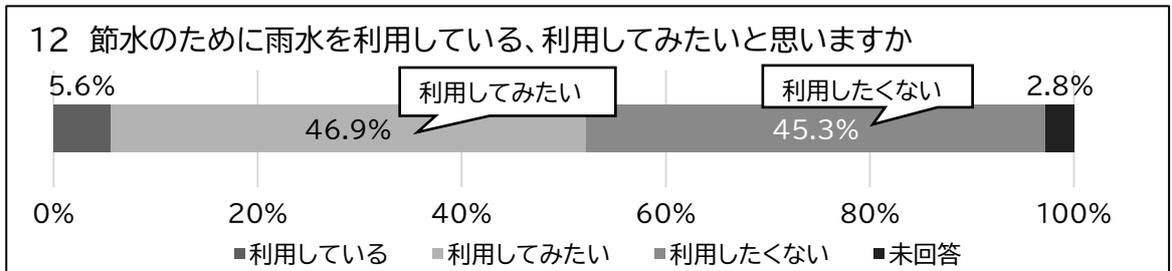
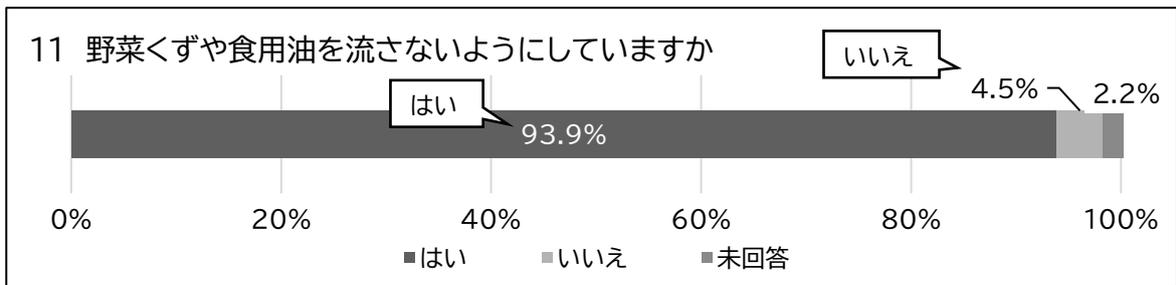


「参加したことがない」と回答したかたはその理由を教えてください



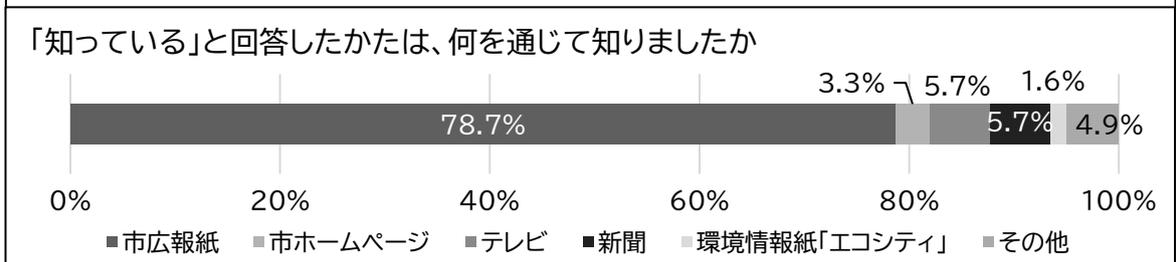
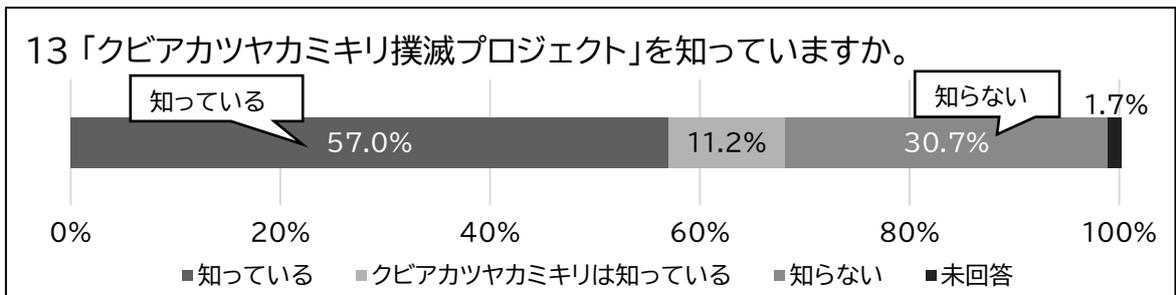
「参加したことがない」と回答したかたはその理由を教えてください

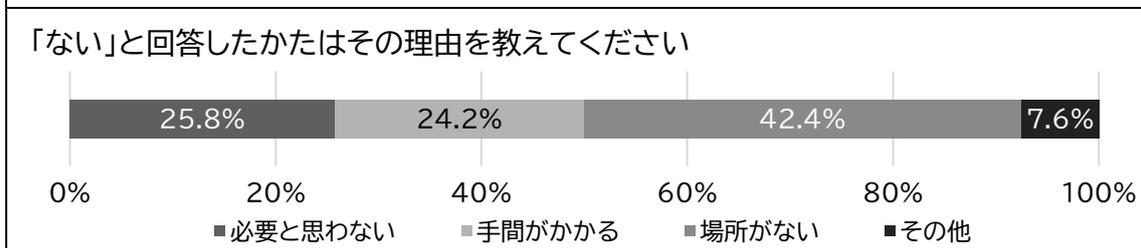
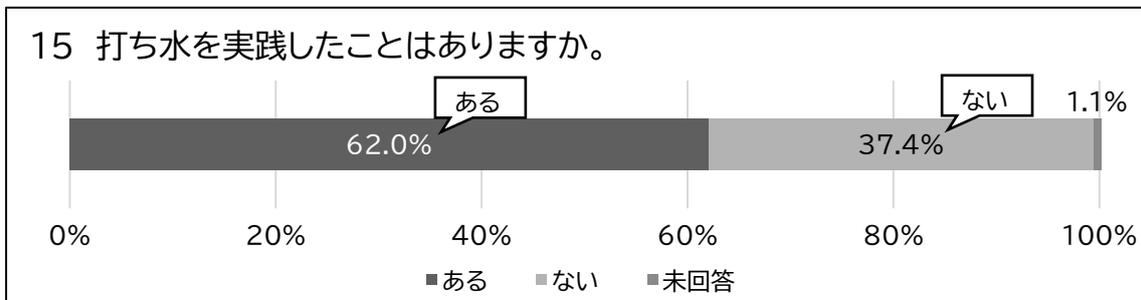
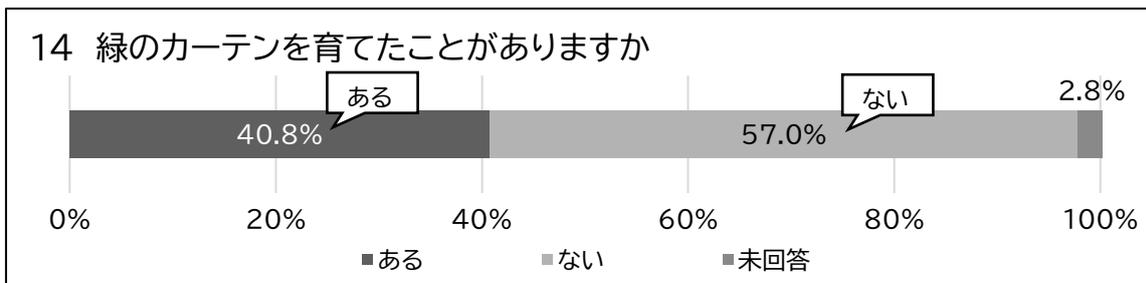




【緑に関すること】

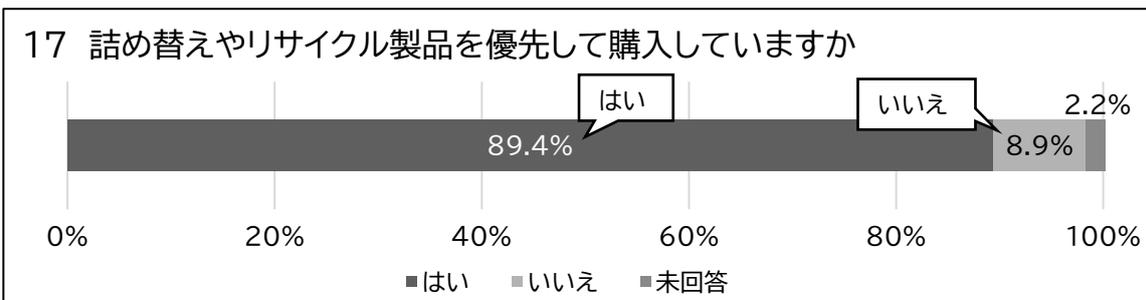
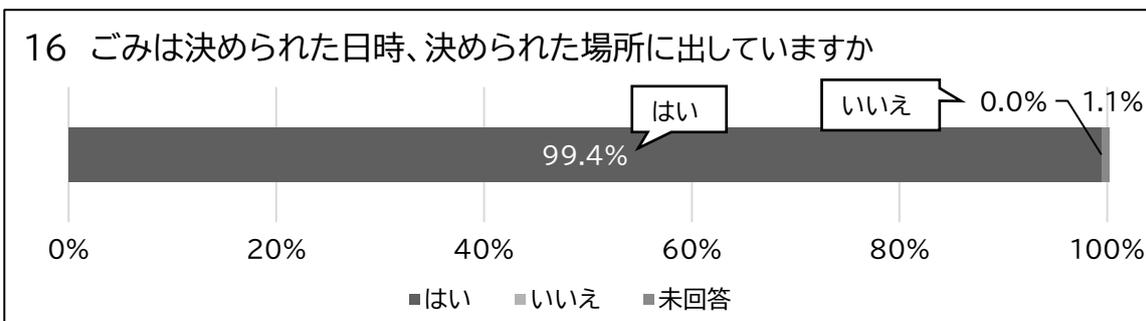
特定外来生物のクビアカツヤカミキリ撲滅運動である「クビアカツヤカミキリ撲滅プロジェクト」を知っている人は約6割いました。また、夏場の節電対策、暑さ対策として打ち水を実践したことがある人は約6割いました。

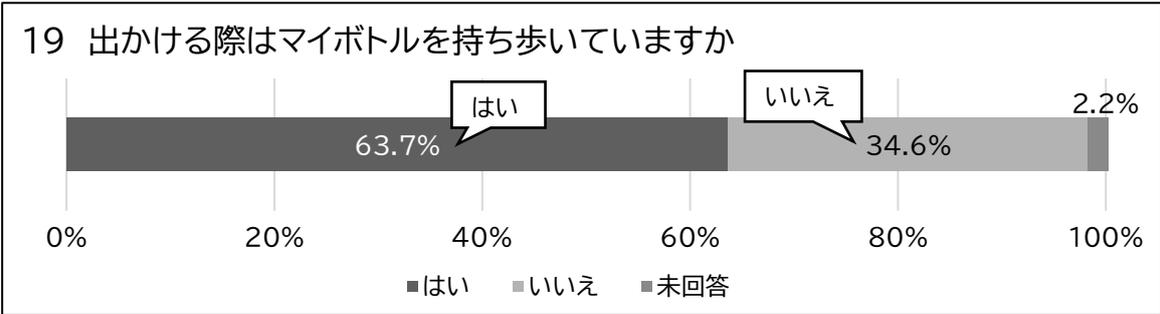
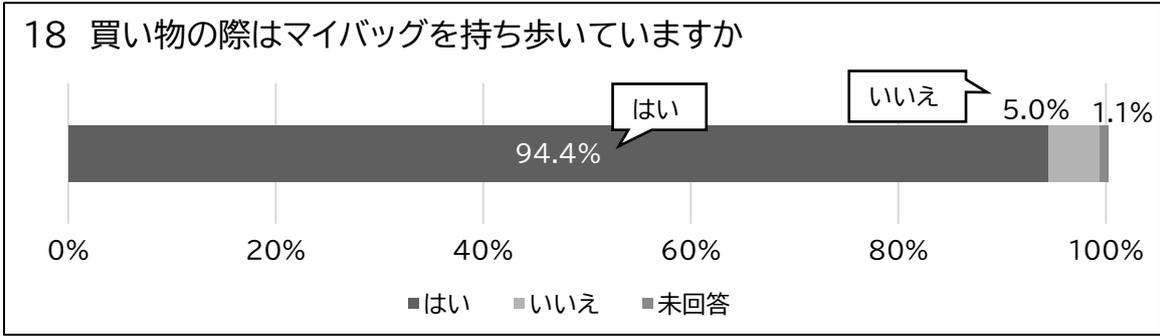




【ごみに関すること】

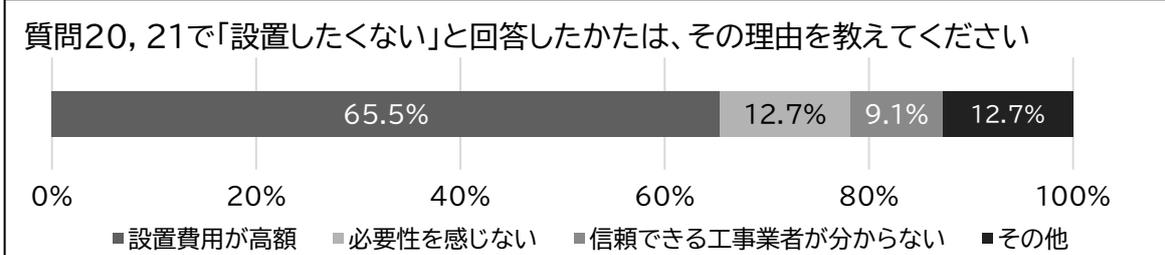
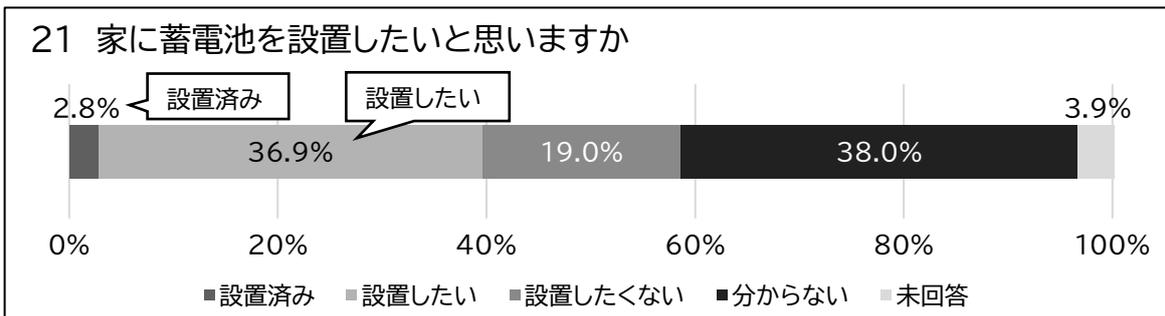
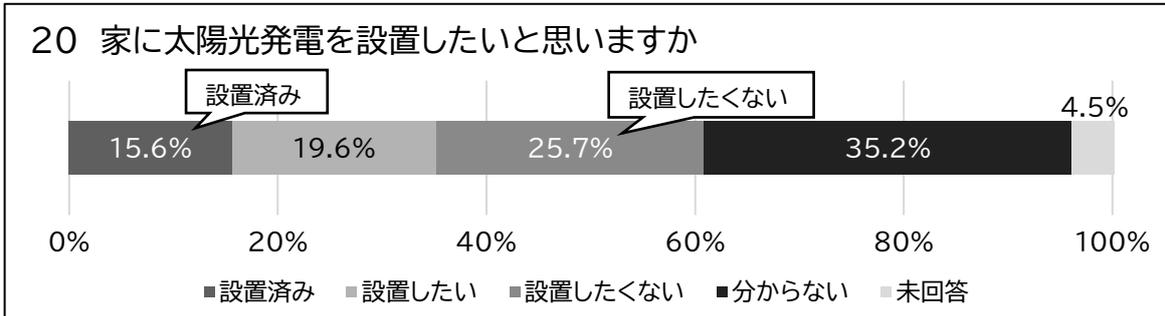
ごみ減量やプラスチックごみ削減に寄与する取り組みでは、詰め替えやリサイクル製品を購入している人及び買い物の際にマイバッグを利用している人は約9割、マイボトルを持参している人は6割となりました。



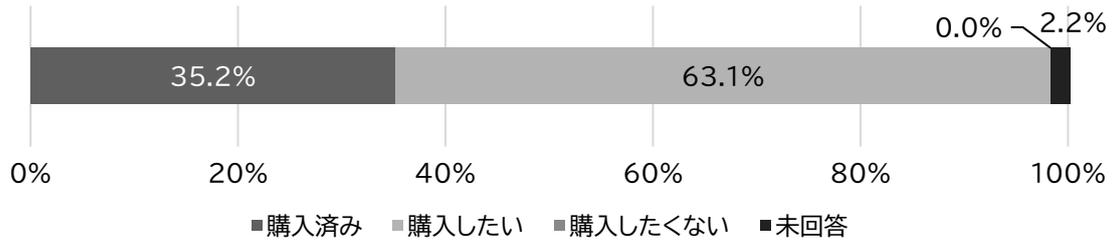


【生活に関すること】

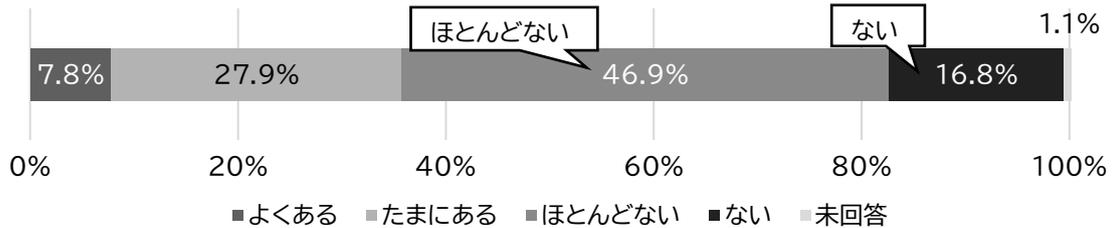
自宅に太陽光発電を設置している人の割合は2割未満でしたが、蓄電池を設置したいと回答した人は約4割となりました。また、公共交通機関については約6割の人がほとんど利用していない結果となりました。



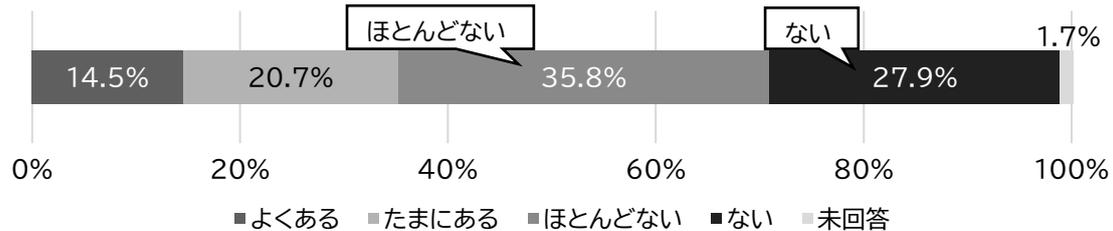
22 家電を購入する際、省エネ型のものを優先して購入したいと思いますか



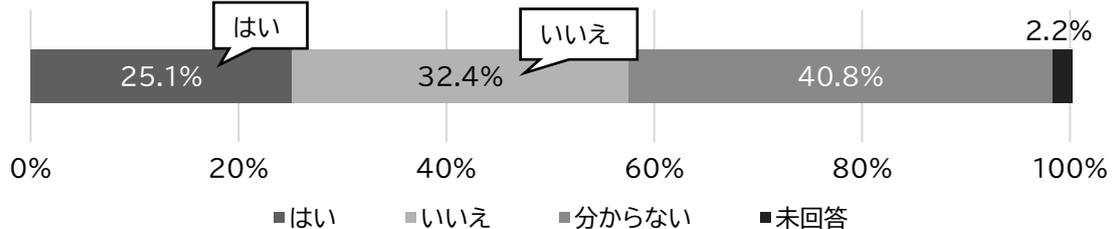
23 公共交通機関(バスや電車、タクシーなど)を利用する機会がありますか



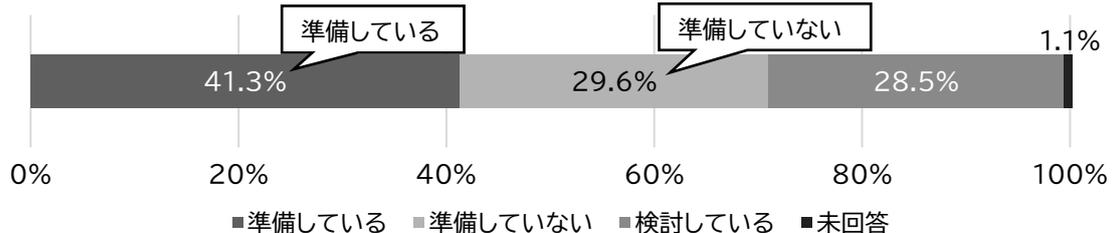
24 自転車を利用する機会がありますか

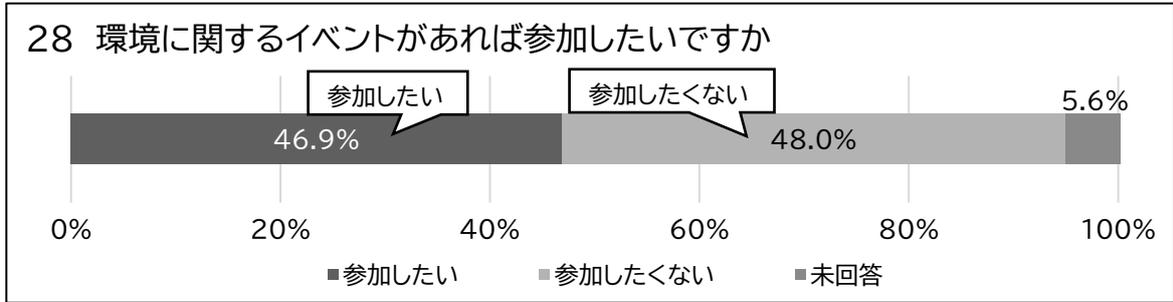
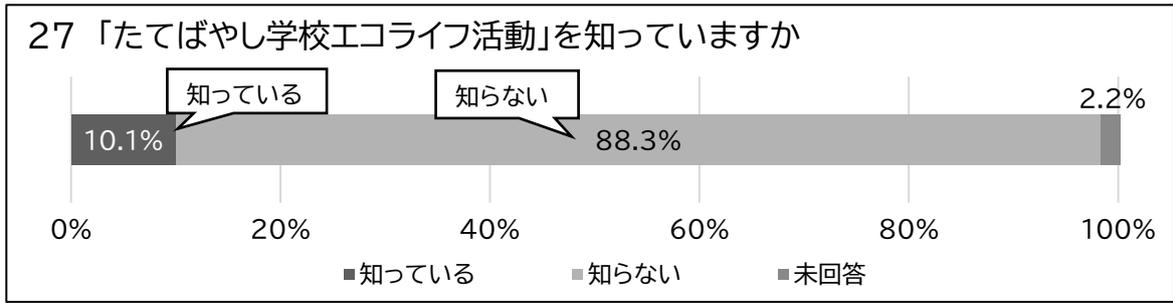


25 あなたが住んでいる地域は、空き家が多いと感じますか



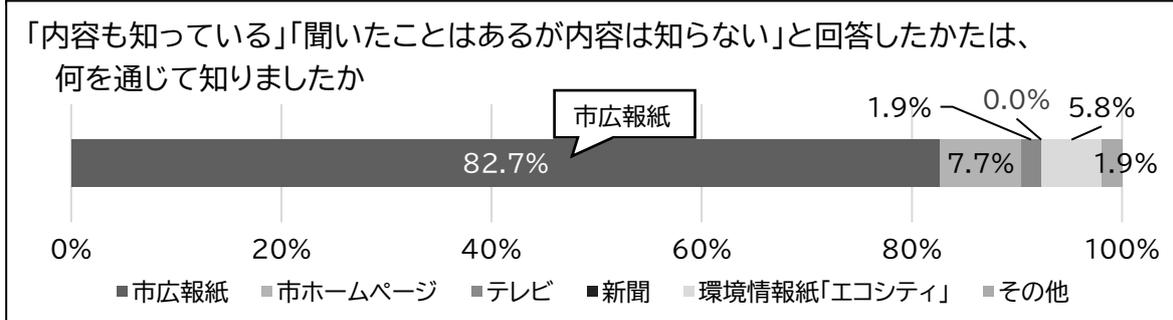
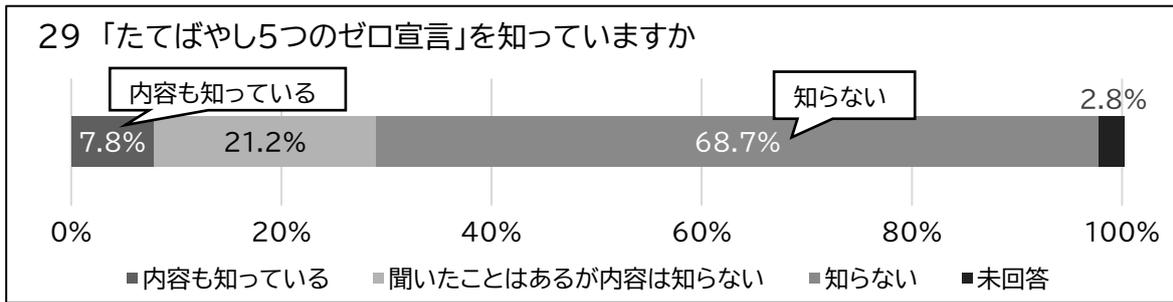
26 防災セット(避難用)を準備していますか





(4) たてばやし5つのゼロ宣言について

聞いたことがあると回答した人は約3割にとどまり、多くの人なたてばやし5つのゼロ宣言を知らないという結果になりました。



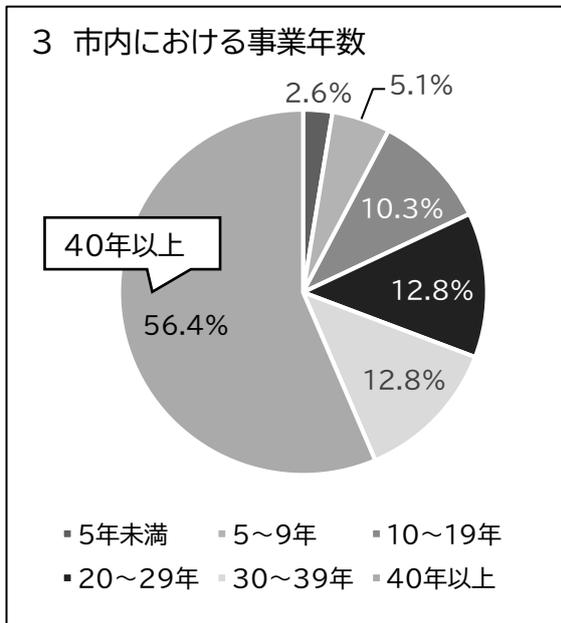
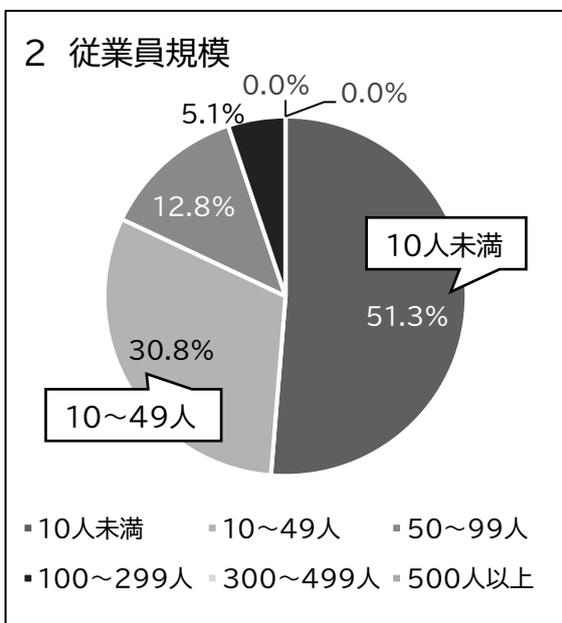
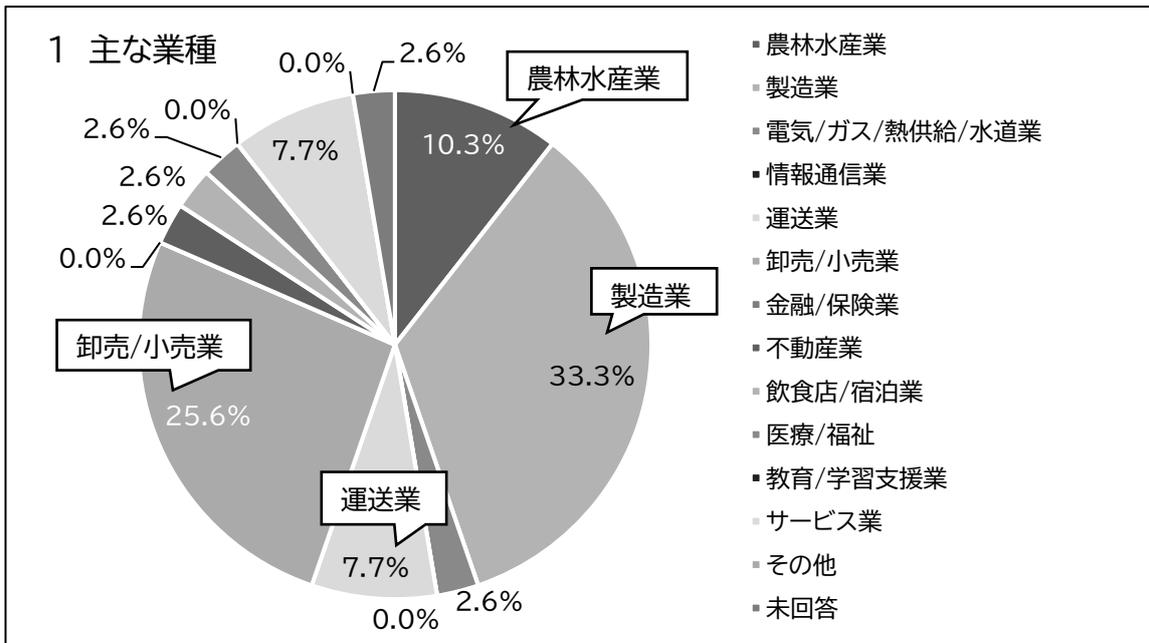
3, 事業者アンケート調査結果

※小数点以下を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にはならない。

(1) 基本情報

【1 主な業種・2 従業員規模・3 市内における事業年数】

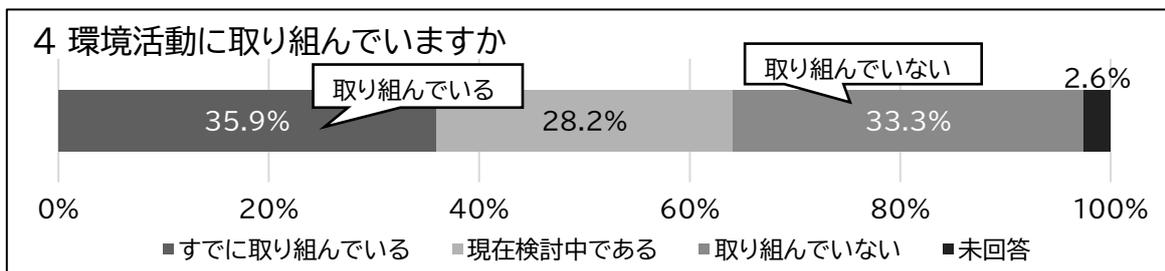
主な業種は、製造業、卸売/小売業がともに約3割を占める結果となり、次いで農林水産業、運送業となりました。市内での事業年数では、40年以上と回答した事業者が半数以上となりました。



(2) 環境への取り組みについて

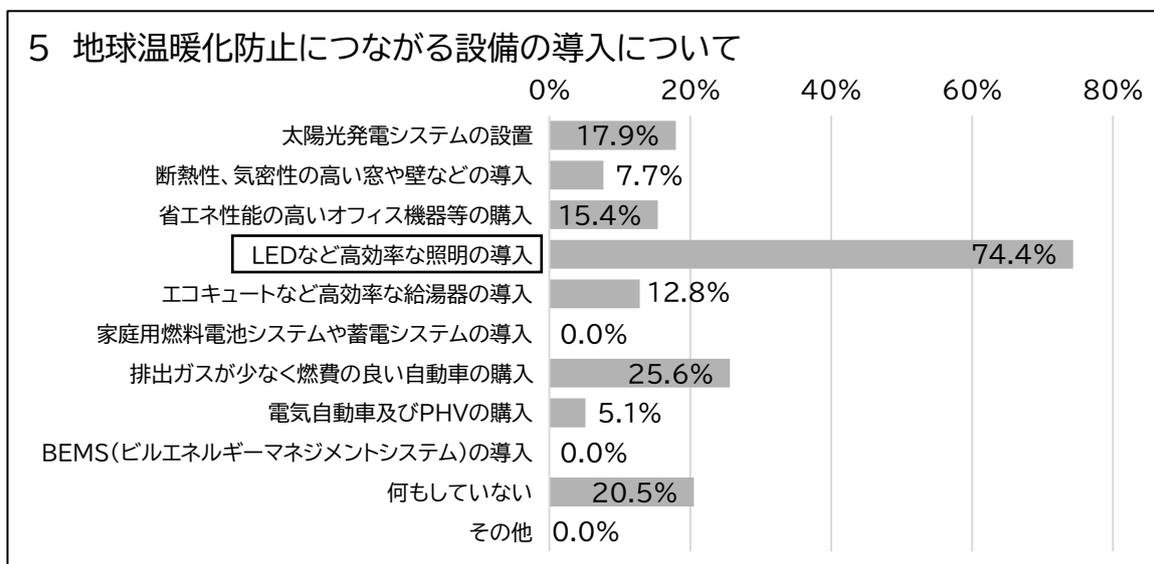
【4 環境活動について】

環境活動に取り組んでいる事業者と取り組んでいない事業者の割合はほぼ同数であり、検討中の事業者は約3割という結果になりました。



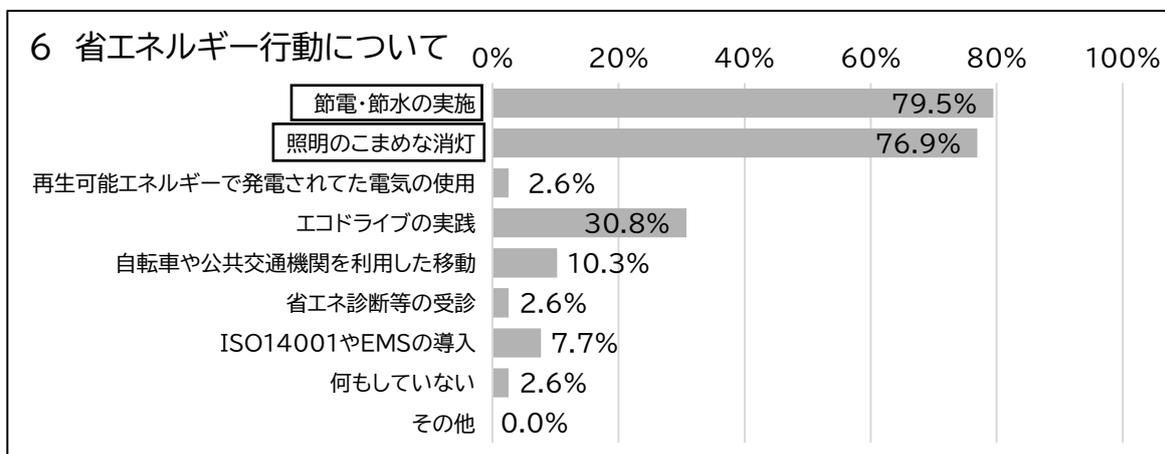
【5 地球温暖化防止につながる設備の導入について】

「LEDなどの高効率な照明の導入」は、約8割の事業者が回答しました。次いで「排出ガスが少なく燃費の良い自動車の購入」、「太陽光発電システムの設置」が多い回答でした。



【6 省エネルギー行動について】

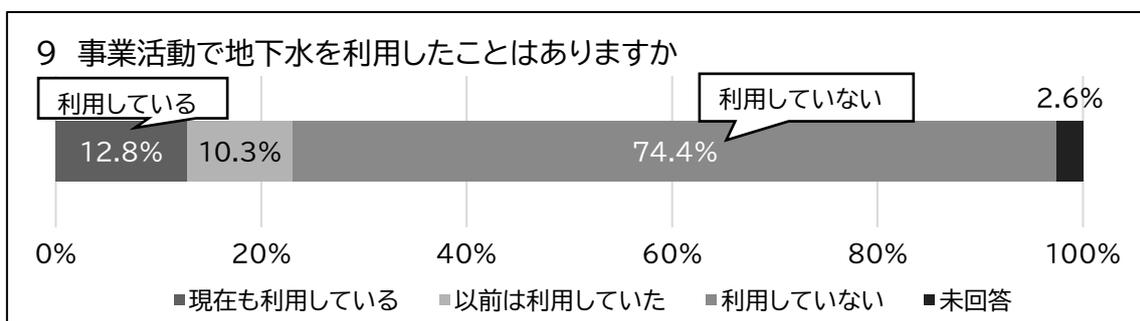
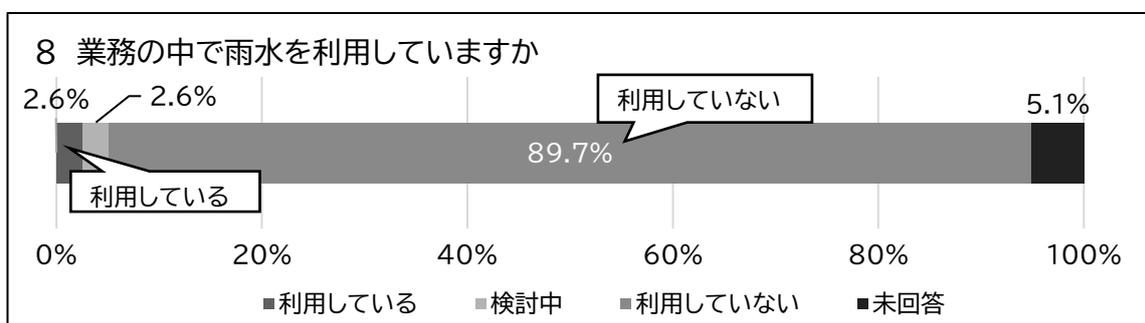
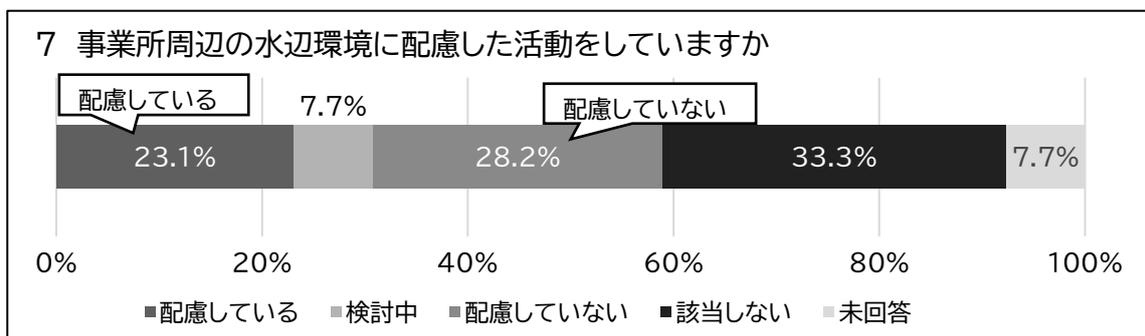
「節水・節電の実施」、「照明のこまめな消灯」は約8割の事業者が回答しました。次いで「エコドライブの実践」を約3割が回答しました。



(3) 環境に関するテーマごとの設問

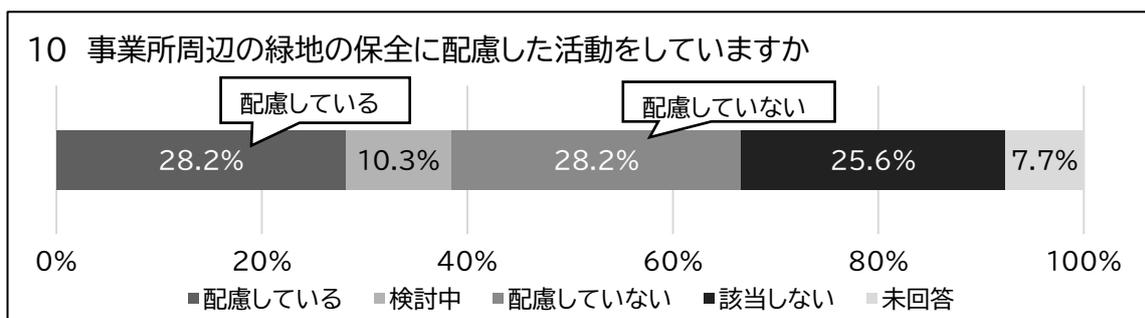
【水に関すること】

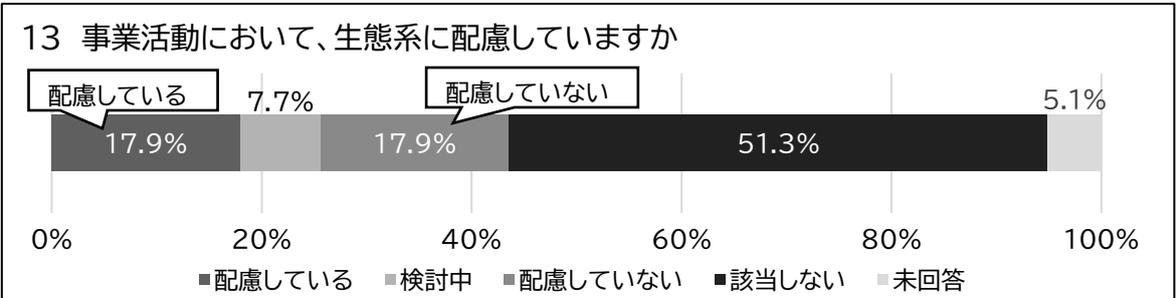
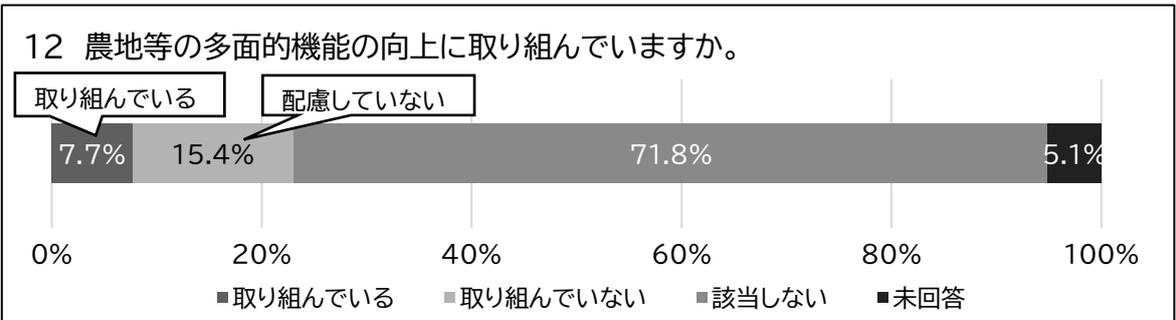
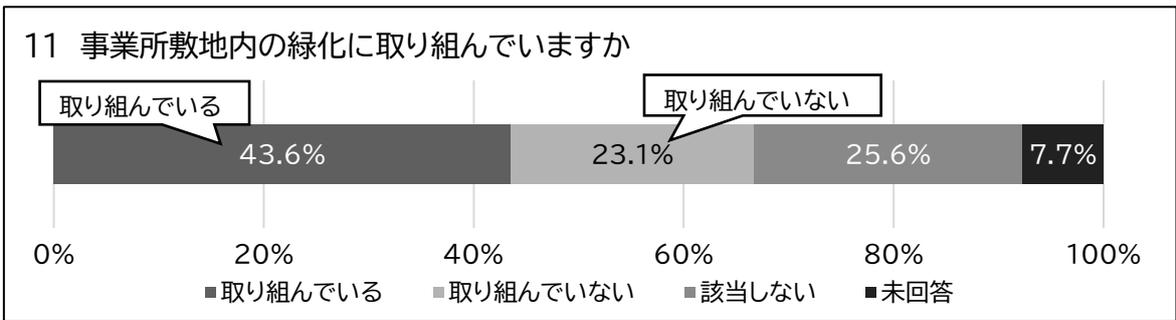
事業所周辺の水辺環境に配慮している事業者は約2割でした。また、事業活動で地下水を利用している事業者は約1割で、利用していない事業者は約7割となりました。



【緑に関すること】

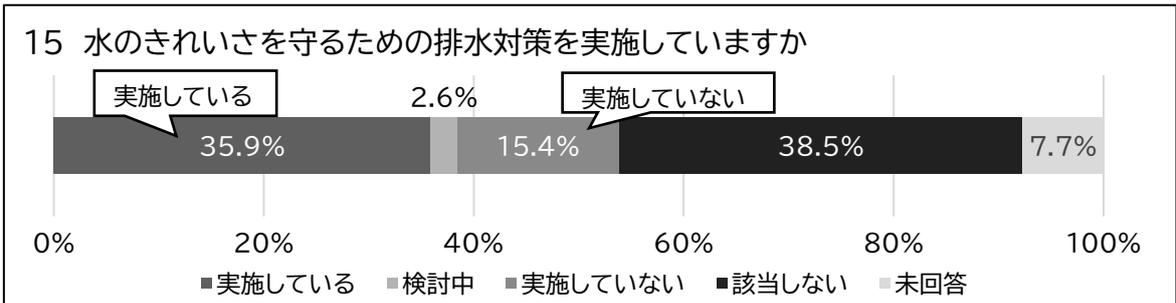
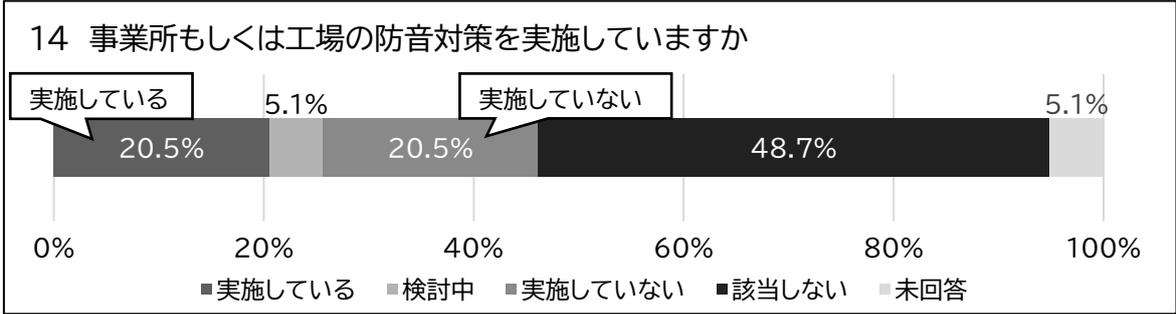
事業所周辺の緑地を保全している事業者は約3割、事業所敷地内の緑化を心がけている事業者は約4割でした。また、事業活動において、生態系に配慮していると回答した事業者は約2割でした。





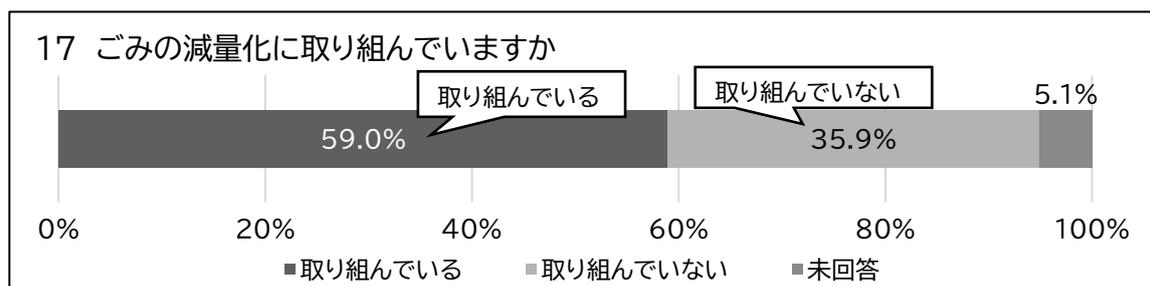
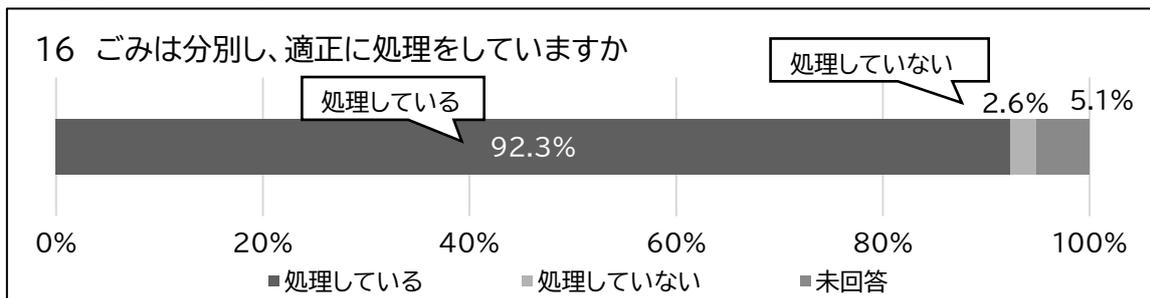
【公害に関すること】

防音対策を実施している事業者は2割でした。また、水のきれいさを守るための排水対策を実施している事業者は4割弱でした。



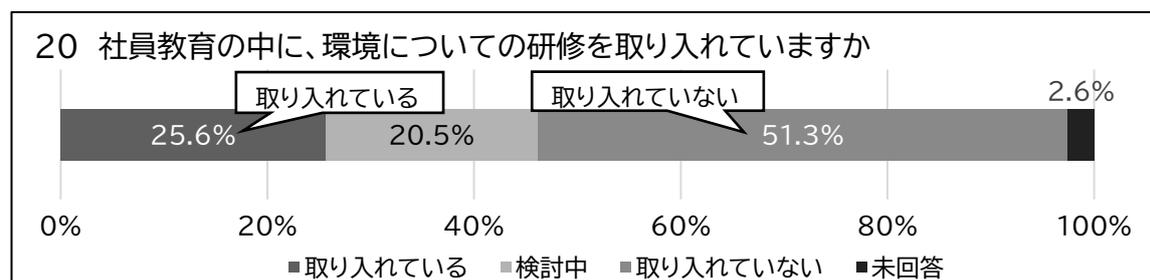
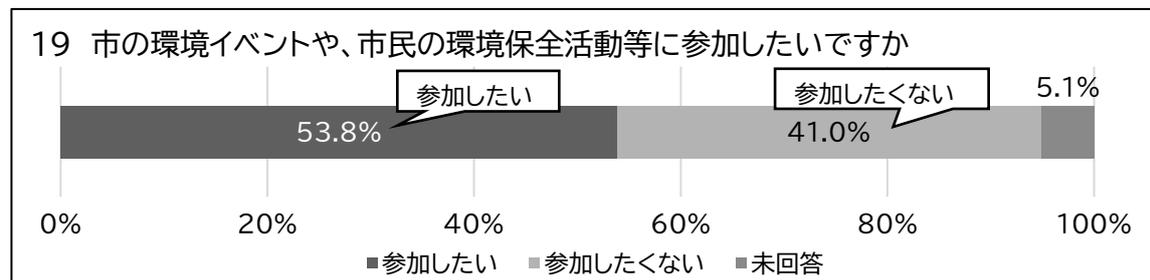
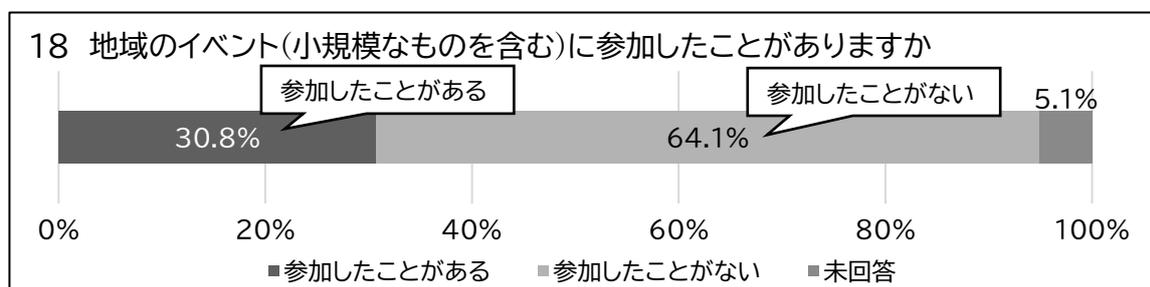
【ごみに関すること】

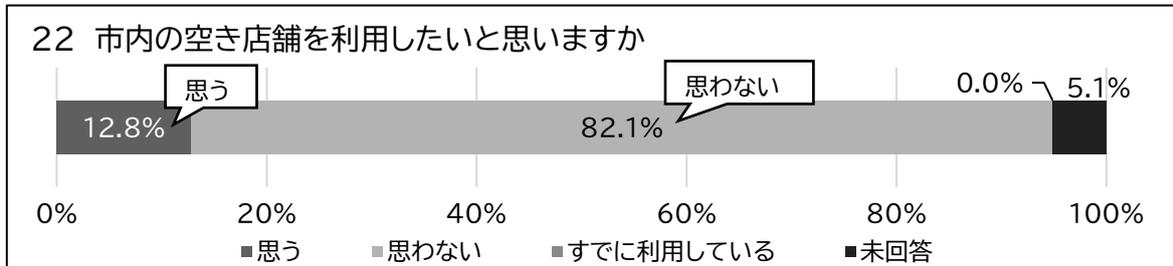
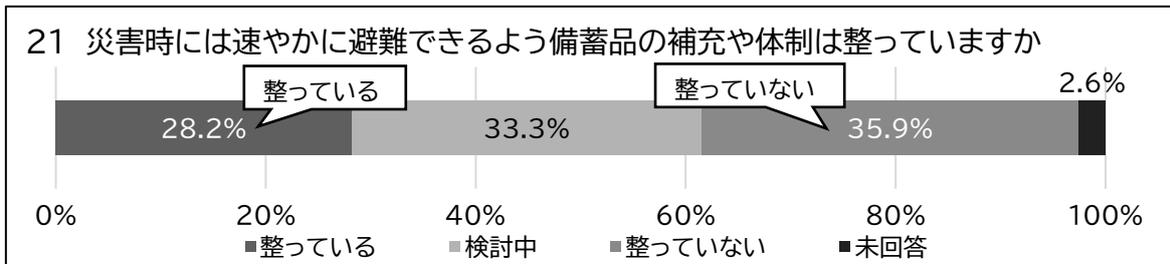
ごみを適正に処理していると答えた事業者は9割強、ごみの減量化に取り組んでいる事業者は約6割でした。ごみの減量化では、紙の裏面利用や資源物のリサイクルの回答が多くありました。



【学びに関すること】

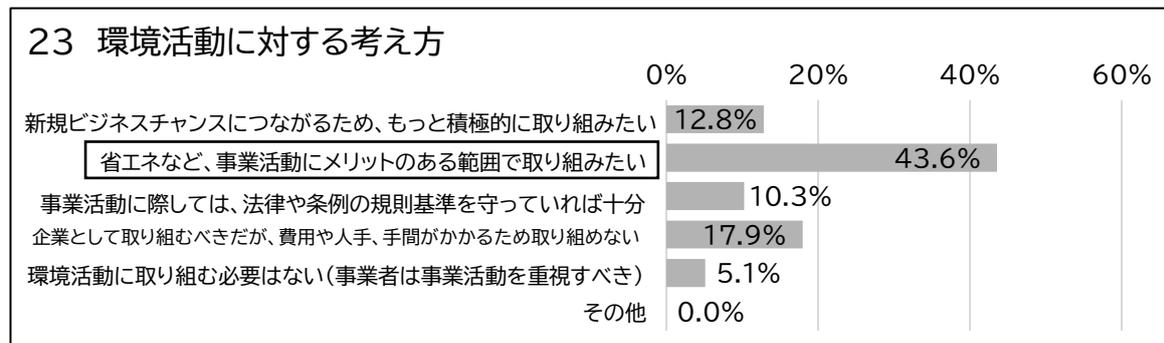
半数以上の事業者が環境保全活動に参加したいと回答しました。社員教育で環境に関する研修を取り入れている事業者は3割未満でした。





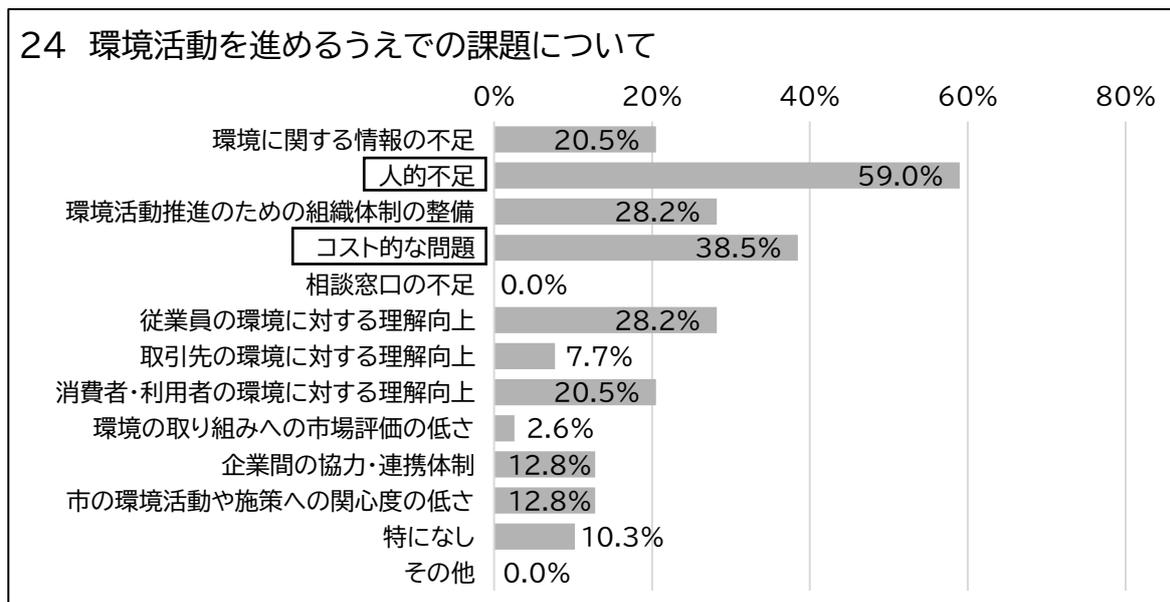
(4) 環境活動に対する考え方

4割以上の事業者が事業活動にメリットがある範囲で取り組みたいと回答しました。また、2割未満の事業者が必要性は感じているが、取り組めないと回答しました。



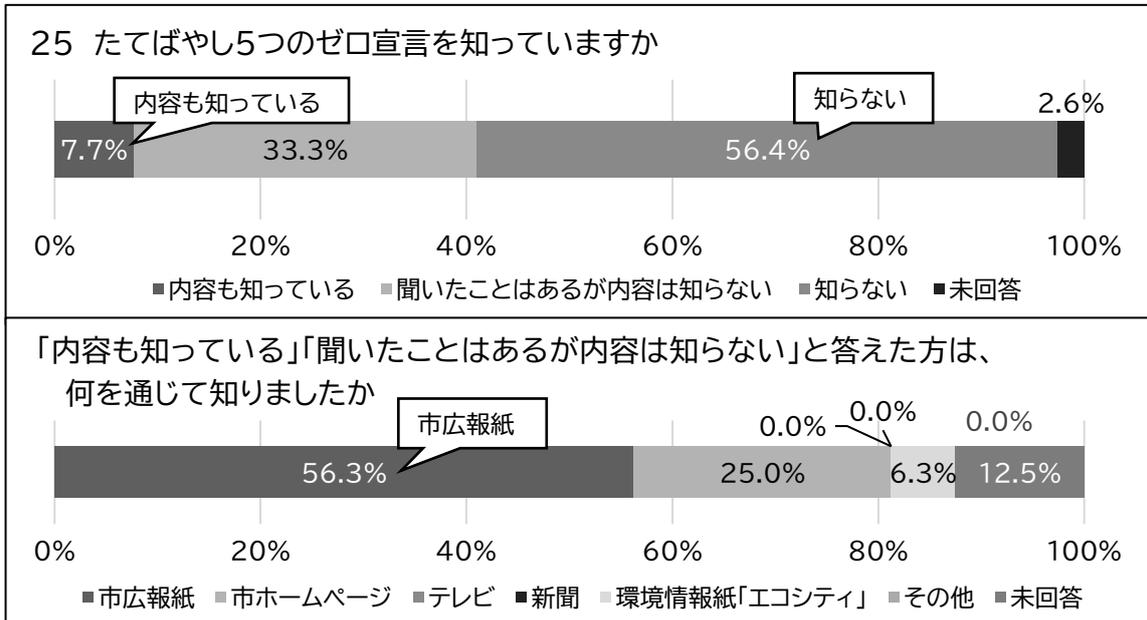
(5) 環境活動を進めるうえでの課題について

課題として「人的不足」が一番多く、約6割でした。次いで「コスト的な問題」が約4割でした。



(6) たてばやし5つのゼロ宣言について

「内容も知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した事業者は約4割、「知らない」と回答した事業者は約6割でした。また、何を通じて知ったかという質問では、市広報紙が半数以上、市ホームページが約3割でした。



4, 現状分析・評価

アンケート調査に関して、市民・事業者の環境活動への取組状況や見えてきた課題から、環境行政の推進に必要な事項について分析・評価を行いました。

(1) 市民の取組

環境活動に関して、多くの市民が取り組んでいる、または取り組む意志がある等しているものの、清掃活動等への参加が少ないなど、まだ十分ではないものがあることが分かりました。

(2) 事業者の取組

多くの事業者が環境活動に取り組みたいと考えているものの、人的不足やコスト面等において課題を抱えていることが分かりました。

(3) たてばやし5つのゼロ宣言

市民・事業者ともに認知度が低いことが分かりました。たてばやし5つのゼロ宣言の内容とこれに資する取組については、多様な手段で理解度の向上を図りながら、取組主体を増やしていく必要性があります。